

城里町の文化財さんぽ(一九)

国指定重要文化財

ちくそうきぼりによいりんかんのんぞう

「木造浮彫如意輪観音像」

指定年月日／明治四四年八月九日
所在地／城里町上入野 管理・所有者／小松寺



如意輪観音像は、観音菩薩が救いのために変化した姿の一つで、意の如く願いが叶う玉「如意宝珠」と、仏の教えを現す「法輪」を持つことが名称の由来となっています。その姿は、六本の腕を持ち、右手を頬にあて物思いに耽る思惟のポーズをとり、右膝を立てて蓮華座に座するというもので、「人々を苦悩から救い、あらゆる願いを叶えてくれる」仏様とされています。

小松寺に安置される国指定重要文化財「木造浮彫如意輪観音像」は、九世紀に唐(中国)で制

作されたものとされています。縦八・五センチメートル、横七・三センチメートル、厚さ一・三センチメートルの小さな板材(白檀材と伝えられている)の周囲を額縁状に彫り残し、その内側に如意輪観音像を浮彫したもので、高髻には群青、唇には朱髪筋と髭には墨が施されています。

観音像そのものは、像高六・四センチメートルの小さなものですが、精緻な浮彫は驚くほど立体的で、肉どり豊かな容貌や体軀からは逞しささえ感じさせられます。

像の裏面には、水戸藩二代藩主徳川光圀による貞享四(一六八七)年の莊嚴銘が彫られ、「水晶をもつて莊嚴を加えた」旨が記されています。

寺伝によると、この像は内大臣平重盛の持念仏であり、平家滅亡の際にこの地に逃れた平貞能が、故主重盛の菩提を弔うために開いた小松寺に伝えたといわれています。

解説文／町文化財保護審議会会長 小山映一
問合せ 教育委員会事務局

☎ 029-288-3135

俳句

晩秋や田に錆色の水が浮き 飯田 勇一
手入れ良き木造校舎銀杏散る 鯉渕 寿美恵
尖りたる風を慰撫せよ枯尾花 今瀬 多代美
真つ白な野菊の里や母眠る 綿引 英子
手の窪にいただく峡の菊脍 仲田 まちゑ

道祖神銀杏落葉を楽しめり 森 静江

歴史館銀杏さくさく踏みにつけり 飯村 昭子

小鳥来る私は視野の一部分 竹内 幸子

柚子たわわ曲りくねりて猫の路 瀬谷 博子

小春日のデイ検温の速さかな 岩下 金司

先頭は幼鳥と聞く冬の雁 田口 勝元

川柳

白川郷冬將軍を待つ灯り 寺門 孝子

肩に腰世話になりますます湿布葉 富田 多蔵

お悔み欄欠かさず見ている暇な人 車田 綾子

今日もまた笑い笑って脳トレだ 飯村 孝一

まだ負けぬ米寿を越えて祖父のほら 川原 清

文芸しろさと

短歌

この旅の為に賜りしと思ふまで秋のひと日の穏やかにあり 渡辺 千紗子
声たてて笑まふ幼に病む夫は負けじと競ふ夫も笑顔に 大森 久子
ふるさとの山より来たる山百合はさ庭に咲きて香り放てり 青柳 京子
雨降りてしつとりとせる地の面には岩松よろこびみな葉を開く 所 美恵子
先祖さま一町歩の田畑手作業せし苦勞せしらむ感謝したれり 山形 式妙

ランドセルカタカタならせし幼孫は今年は一恙なく在れ 杉山 みちこ

境内の銀杏大樹を影となし西に入りゆく真赤な太陽 枝 不美

ほうけたる尾花にからむからずうり赤き実をつけ夕映えの農道 島 愛子

老いの身は忘れる事が多くなりそれでも家族は寄りくれる 坪井 きよ子

「お野菜も食べてね」とお願いす孫に重なる食育活動 萩谷 登喜子

久々の日塩道は黄葉紅葉輝き見つつ走りゆく旅 富田 佐智子

富田 佐智子

